

- 生徒支援目標
- (1) 自ら考え、判断し、行動できる生徒（自立）
 - (2) 自分自身とまわりの人を大切にできる生徒（協働）
 - (3) 相手のことや先のことまで考えた言動をとることができる生徒（想像・創造）

生活習慣や生活環境の見直しを

1学期も残りわずかとなってきましたが、新年度に抱いた気持ちや設定した目標は、高い位置で維持できているでしょうか？緊急事態宣言の延長やまん延防止等重点措置の延長などのまだまだコロナ禍であり、また蒸し暑さもあり、様々な活動が思うようにできない日々で、不安や不満もより一層たまってきている人も多いのではないのでしょうか？

しかし、「新しい生活様式」という言葉からもわかるように、「With コロナ」をベースに、これまでとは異なる生活習慣や生活環境を考えていかなければなりません。もちろん、学校生活においても、「新しい学校様式」で生活していかなければなりません。

そのような大きな変化がある今日ではありますが、いつのどんな時代でも変わらない大切な生活習慣や生活環境があるはず。それは、「**全員が気持ちよく生活できる**」ための生活習慣・生活環境です。改めてこの視点で自分の生活習慣や自分の身近な生活環境を見直してみてもいいのでしょうか？

<追伸> 7月の環境専門委員会でも、各学年の生活習慣や生活環境の見直しをしました。その中で、次のような各学年の生活習慣・生活環境の課題があがりましたので、今後各学年の環境専門委員会を中心に啓発活動を行っていく予定です。 【各学年の課題】 1年生：ロッカー整理 2年生：机の上・学級文庫の整理 3年生：靴箱の整理

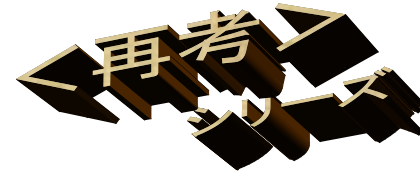
「思いやり貸傘」を始めました

梅雨が思いのほか長引いており、予定外の急な大雨が降ったりする今日この頃。本校では、これまでも、そんな予定外の急な雨で困ったときに借りることができる貸傘がありましたが、職員室にわざわざ借りに来なければならず、若干面倒くさいこともあり、下足箱に置いてある誰かの傘をそっと借りておこうという状況になっていたかもしれません。

このような学校生活環境の改善策の一つとして、「思いやり貸傘」を始めようことにしました。この「思いやり貸傘」は、使い勝手が良いように、下足箱に20本の貸傘を設置し、帰り際に誰でも無断で利用できるシステムとなっています。この「思いやり貸傘」の20本の貸傘が、皆さんのちょっとした「思いやり」によって、まずは年度終わりまで維持されることを願っています☆

この「思いやり貸傘」を通して、本校全員の「思いやり」の「つながり」を広め、強めていきましょう!!

※これまでの職員室での傘の貸出も行っていきますので、こちらも必要に応じてご利用ください。



③ 「学校掃除」

学校教育において、これまで当たり前と想っていたことを、皆さんと一緒に改めて考えていきたいと思います。

新型コロナウイルスの影響で、思わぬところで変化が見られた学校（小学校～高校）の風景のひとつが「学校掃除」です。コロナ前までは、日本のほとんどの学校で、ほぼ毎日「学校掃除」を行っていましたが、コロナ禍で子ども達に掃除をさせることへの抵抗が広がってきました。そこで、これまでに当たり前に行ってきた「学校掃除」は本当に必要なかを考えるべきときに来ているように思います。とりあえず日本の学校教育の基礎となっている学習指導要領（平成29年告示）を参照してみると、なんと中学校の学習指導要領では、掃除や清掃指導についての記述はありません。つまり、「学校掃除」は義務化されているものではないことがわかります。もちろん、学習指導要領に書いていないことであっても、各学校が実施することは、なんら差し支えありません。

では、ほぼ毎日行っている「学校掃除」はこれまで何のために実施してきたのかという目的をはっきりさせる必要があるように思います。そもそも一般的な掃除の目的は、「きれいにする」こと。そうであれば、ほうきや雑巾よりも掃除機やルンバ、掃除業者のほうが効率よく楽に目的を達成できると思いませんか（笑）。もちろん、そのようになっていないのは国の予算の問題などあるのですが、きっと違う目的があるように思えます。

そこで、「学校掃除」の歴史をさかのぼってみることにします。この「学校掃除」は、江戸時代の寺子屋、中世の寺院教育にまでさかのぼることができ、掃除を開悟の手段、人間修行の重要な方法とみなす仏教的掃除観から始まったようです。現代的に考えるなら、つまり「学校掃除」の目的は、「清潔の習慣の育成、公共心の育成、健康の増進、勤労の体験などの道徳的な意義や教育的な意味」ということでしょう。この目的であれば、現在も取り組まれている「学校掃除」の必要性もわかる気がしますが、この目的を達成するためであれば、他の方法でも良いような気がします。

ちなみに、日本の学校ではおなじみの「学校掃除」ですが、海外の国々では子どもに「学校掃除」をさせることは多くありません。これは、ほとんどの国にとって清掃は「作業・職業」であり、「学習内容」ではないためだとされています。世界105カ国を調査した出典によると、子どもが掃除を行う国は34.3%、清掃員に掃除を任せる国は58.1%となっています。例えば、アメリカでは大部分の学校で清掃員が「学校掃除」を行っています。これは「作業を清掃員に任せることで子どもが本分に集中できる」という考え方に基いており、子ども自身が学校を掃除すべきという考え方は主流ではありません。その一方で、「子どもがゴミを捨つけない」、「机にチューインガムが貼り付いている」などの子どもに掃除をさせないゆえの問題点も指摘されています。このような現状から、子どもによる「学校掃除」を取り入れるべきだという声も増えているようです。

あなたは「学校掃除」をどのように考えますか？むしろ、現在も行われている「学校掃除」にどのように取り組んでいきますか？

子どもが学校の掃除			
アメリカ	イギリス	中国	シンガポール
×	×	○	×
フランス	ドイツ	日本	韓国
×	×	○	○

Hot News ホットニュース

「ホッ」と、うれしくなる
ニュースをお知らせします♪



◇先日、道端で倒れていた女性を、数名の生徒が協力して臨機応変かつ迅速に対応し、救急隊に無事に引き渡すことという出来事がありました。後日、その女性からお礼の電話がありました。人を助けるための判断力と行動力が素晴らしいです！本当にありがとうございます♪